

「アレルギーの臨床に寄せる」－817－
 オバマ大統領から送られた金賞の楯
 【矢追インパクト療法】

東京渋谷 山脇診療所

山脇 昂

矢追インパクト療法は故(2015年2月亡)矢追博美先生が現在保険診療で行われている減感作療法をより危険性を少なくするために工夫改良され創始された療法ですが、アレルギー性疾患のみならず色々な方面の疾患に効くことを発表され、私もそれを踏襲し、整形外科的痛み等に頻用しています。2011年2月米国オバマ大統領より表彰され、金賞の楯(GOLD AWARD)を受けられました。そこに書いてあることをそのままここに掲載します。アレルギー性疾患のみならず、色々な難治性疾患にも役立つと書いてあります。良くこんなことまで調べ尽くしたものだ。さすがアメリカの情報力だと感心しました。

PRESIDENTIAL CHAMPION
 THE PRESIDENT'S COUNCIL
 GOLD AWARD
 DR. HIROYOSHI YAOI

In recognition of his outstanding contributions and dedication in promoting the health of people through establishing a new style epoch-making medicine by developing his own unique, safe, inexpensive and ecological therapy called Yaoi Impact Therapy (YIT).

His therapy has helped many allergic, intractable and infectious diseases, painful neuromuscular and joint ailments, cancers and worldwide physical and mental health of the people. It has also proved to be an excellent efficacious against ageing. He continues to pursue further studies and researches.

In witness of thereof in recognition whereof, I have hereunto put my hand and affixed the Seal of the President's Council of US Department of Health and Human Services on the Second day of February, 2011.

Signed by
 Barack Obama
 President of United States

オバマ大統領は何時、何処でこの療法を知って、このような認識を持ったのか詳細は知りませんが、やはり殆どの病気に効くとお褒めの言葉を書いておられます。

矢追先生はローマ法王ベネディクト16世にもお褒めの言葉を頂いたそうです。エジプト・マケドニア・グルジアでも矢追先生は矢追インパクト療法を広められました。

またグレートジャーニーで南米最南端のナバリノ島から、人類生誕の地アフリカ・タンザニア迄逆に通った冒険家で医師の関野吉晴先生がアールペーダーと羊に使う焼き火箸(高地でお灸は役に立たない)等を治療に利用するスローメディスンのネパールの田舎で御し難い病の治療に矢追インパクト療法を使用され著効を得られたそうです。今でも僧侶(兼医師)さん達にこの療法を教え、物資を送ってこの療法をネパールで継続されています。このようではありませんが、日本の中における認知度は低く、日本内科学会とか外科学会等では発表に応募しても査読で不採用となり発表させてくれません。また何にでも効くと如何にもマスコミ受けを狙ったものだと日本医事新報社でも掲載を断られたそうです。そんな事柄がまた日本国中に知れ渡らず広がらない大きな因子となっています。私もある小さな学会で「創作医療 創作料理というのはあるが創作医療と言うのではない」を発表しようと応募しましたが、査読で不採用でした。矢追インパクト療法はそれぐらい良く効きます。目の病気とか靴擦れまたは足関節等のオーバーユース後骨折とか無菌性アキレス腱周囲炎とか、モートン病とか足の種子骨炎等それぞれの専門科に捕らわれず、治療しづらく、長時間かかる細かい炎症や変形の矯正にも器用に対応できます。手指の関節リュウマチの腫脹・発赤・疼痛には良く効きます。長期間遣っていると、関節破壊が止まり、増骨、関節の修復が起こってきます。この療法はあくまでも筋・腱・滑膜・骨膜等の軟部組織への刺激治療となります。整形外科で考えられているような骨をメインの対象とする治療法ではありません。服用している沢山の薬や注射とは関係なく起こります。多分これらの薬剤は不要になるでしょう。